

## 「長妻大臣と語る『みんなの年金』意見交換会」について

### 1. 概要

7月24日、年金局・日本年金機構の共催により、あらゆる世代・各層の人々（受給者、現役世代、若者、行政）が一堂に会した上で、今後の「年金制度」と、年金の加入者や受給者に対するお知らせや手続、相談などの「年金サービス」について、自由かつ幅広い意見を聴取させていただき、今後の制度・実務の改善に活用するため、「長妻大臣と語る『みんなの年金』意見交換会」を開催。

### 2. 開催形式

- 一般公募による参加者及び行政（年金局及び日本年金機構）で構成する10名程度のグループを5つ作り（計50名程度）、①年金制度（3グループ、うち1つは若者のみ）及び②年金サービス（2グループ）について議論を行い、各グループ内で議論の内容をとりまとめた後、各グループ代表者から議論の結果について発表した。
- 一般参加者は、厚生労働省のホームページや年金事務所等で公募を実施し、138名の応募の中から、35名の方にご参加いただいた。また、105名の方が傍聴し、メディア15社が取材。
- 当日に参加者から寄せられた主な意見は別紙のとおり。

※ なお、参加者の方々には、今後も引き続き、年金改革に向けた議論の中で、資料を送付したり、意見を伺ったりできる関係を維持し、コミュニケーションを採らせていただく予定。

## 「みんなの年金」意見交換会における主な意見

### A・B・Cグループ テーマ「これからの年金制度に何を期待しますか」

#### I 年金制度の役割・意義

- 老齢や障害により働けなくなったときのセーフティ・ネット、リスクを負ったときの「杖」として重要。しかし、若者には負担感大。
- 今まで社会を作ってきた世代への「感謝の制度」でもあり、国との「社会契約」でもある。

#### II 少子高齢社会日本にふさわしい年金制度

##### ○わかりやすい制度

- ・ 納得して保険料納付できるような分かりやすい制度設計が必要。厚年・国年を一元化し、格差を是正。

##### ○納得できる保険料負担

- ・ 若年世代への負担能力を考慮すべき。子育て世代への配慮が必要。
- ・ 保険料負担ができない者は社会貢献活動で納付したとみなすことも一案。

##### ○安心できる給付

- ・ 確実な最低保障を行い、無年金者がいないような制度に。
- ・ 安心できる水準の給付の実現により、消費活動を促し、成長につながる。

##### ○国民が参加できる政策決定

- ・ 政局に影響されない制度をつくる必要がある。若年世代を含めた議論の場を作るべき。

##### ○若年世代への教育

- ・ 若年世代への制度の周知・教育は長期的な維持のためにも重要。

D・Eグループ テーマ「年金サービスに関するサービス（年金の加入者・受給者に対するお知らせや手続、相談など）に何を期待しますか。」

**サービス改善に向けたアイデア**

- 年金事務所における相談の充実
  - ・ 年金制度についての知識についてテストを行い、その結果を給料に反映。
  - ・ 損害保険や生命保険など、他の年金サービス機関での研修を行う。民間の異業種の方を採用し、組織を活性化。
  - ・ 相談内容により窓口を分ける。
- 用語・資料を分かりやすく
  - ・ 資料を分かりやすくする。年金に関する用語を分かりやすく、シンプルに。
  - ・ 保管をしやすいように、年金に関する文書のサイズを統一する。
  - ・ ねんきん定期便はいいものだが、文章がわかりにくく、情報量が多すぎる。ねんきん定期便の頻度や送付対象者を見直してはどうか。
- 広報の強化、教育
  - ・ 若手世代が年金についての関心を高めるよう、広報活動に力を入れる。
  - ・ 小中学校において、社会保障制度の授業を取り入れる。
- 情報アクセスの向上
  - ・ 年金についての文書を、メールにしてIT化する。
  - ・ インターネットや携帯電話で、年金の加入履歴を確認できるようにする。
  - ・ 年金事務所よりも身近な場所にある銀行や郵便局などにおいて、年金の手続きを可能とする。
- その他
  - ・ 年金の支払いを2か月に一度ではなく、毎月払いとする。
  - ・ 身体の不自由な方には訪問による相談や事務手続きを実施する。